

森林の多面的な機能



森林のもつ多面的な機能は、私たちの生活と深くかかわっています。

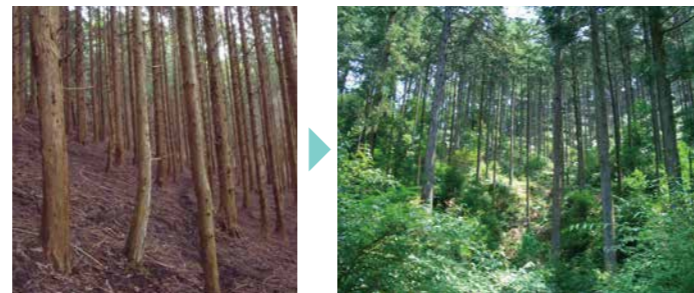


多面的機能を高める取り組み



● 森林環境保全基金事業

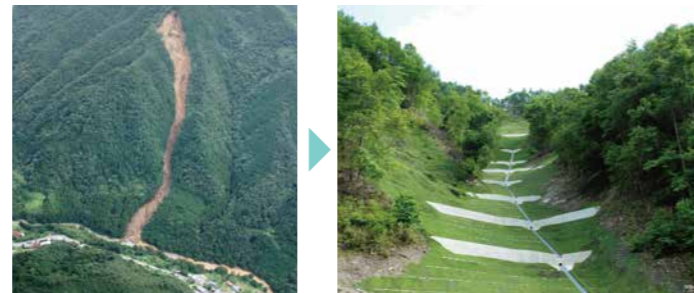
荒廃森林を再生するための間伐をはじめとした森づくりや、木材の利用促進、森林体験活動に対する助成などに、県独自の森林環境税を活用しています。



荒廃森林の再生

● 地下水及び水源地域の保全に関する条例

将来にわたって健全な水循環を維持するため、地下水の適正な採取と、水源地域の適正な土地利用の確保について定めています。



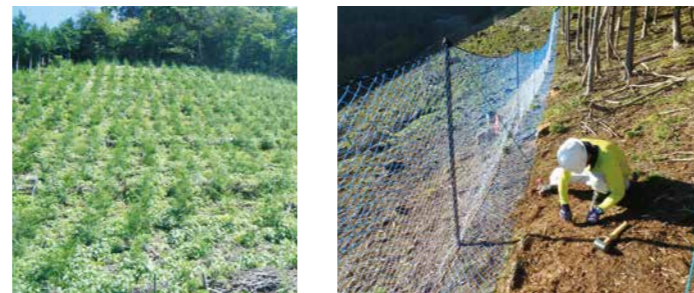
治山事業による崩壊地の復旧

● 治山事業

山地災害から生命・財産を守るため、山腹崩壊地や荒廃渓流を復旧整備するとともに森林を維持・造成し、水源涵養、生活環境の保全などを図っています。

● 野生鳥獣被害対策

ニホンジカなどによる森林被害を軽減するため、生息密度調査にもとづく計画的な個体数管理を行うとともに、防護柵などの設置による樹木の保護を行っています。



シカの食害からの植栽木の保護

● 森づくりコミッション

さまざまな主体による森づくり活動を進めるため、森づくりを希望する企業や団体などの相談窓口として、活動フィールドの情報提供などの支援を行っています。

やまなしの森林



8月11日は
祝日
「山の日」

やまなしで過ごす「山の日」 ～コンセプト「山に親しむ」「山に学ぶ」「山と生きる」～

祝日となった「山の日」を契機に、山梨県の山や森林に親しむ機会を提供し、山の恩恵を実感してもらえよう、やまなしで過ごす「山の日」事業を展開していきます。

表紙:山梨県全図衛星写真[山梨県富士山科学研究所提供]

データで見る山梨県の森林

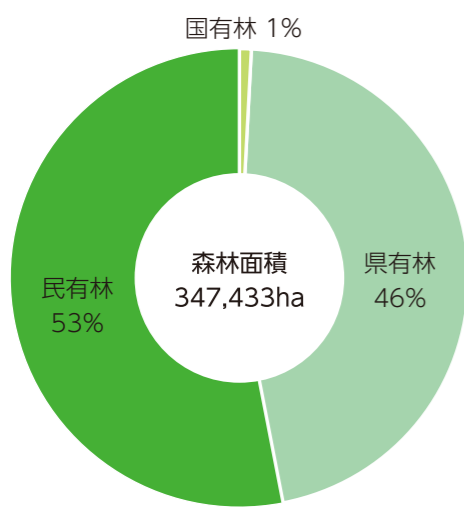
本県は、森林が県土の78%を占める全国有数の森林県です。優れた自然景観の保護と適正な利用を図るための自然公園や、水源の涵養・土砂の流出防備などのための保安林の指定率が高いことが特徴です。

全 国		山 梨 県	
37,797千ha	総面積	446,527ha	
25,081千ha (66%)	森林面積(森林率%)	347,433ha (78%)	全国5位
5,567千ha (15%)	自然公園面積(指定率%)	121,153ha (27%)	全国7位
12,170千ha (32%)	保安林面積(指定率%)	213,991ha (48%)	全国3位

全国順位出典 森林・林業統計要覧(林野庁、2017)、環境省HP公表値(2017)、全国都道府県市区町村別面積調(国土地理院、2017)

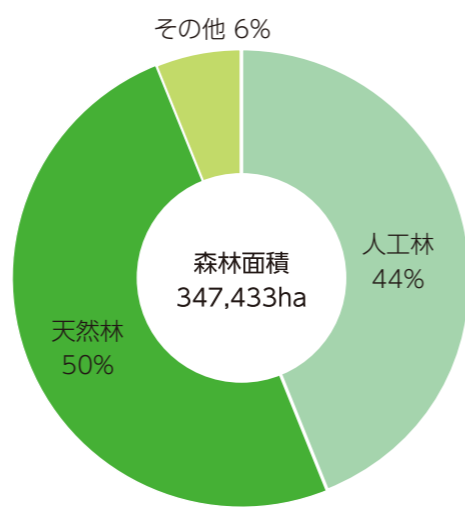
本県の状況

所有形態別の森林面積割合

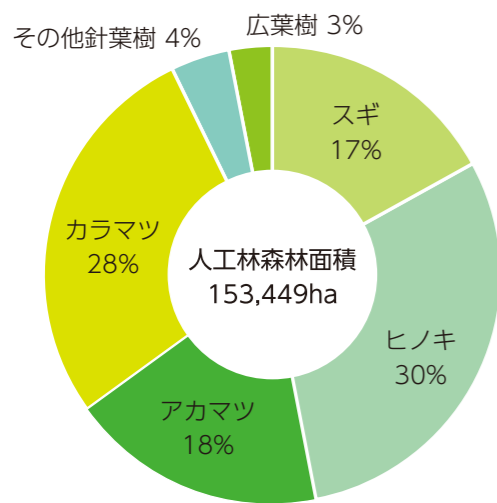


県有林内の植樹用貸地4,313haは民有林に含む

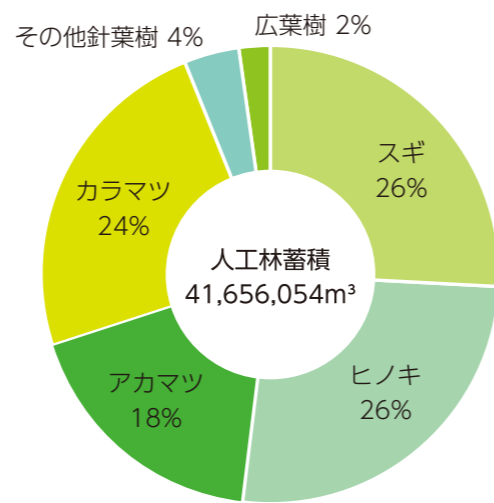
天然林・人工林の面積割合



人工林の樹種別面積の割合



人工林の樹種別蓄積の割合

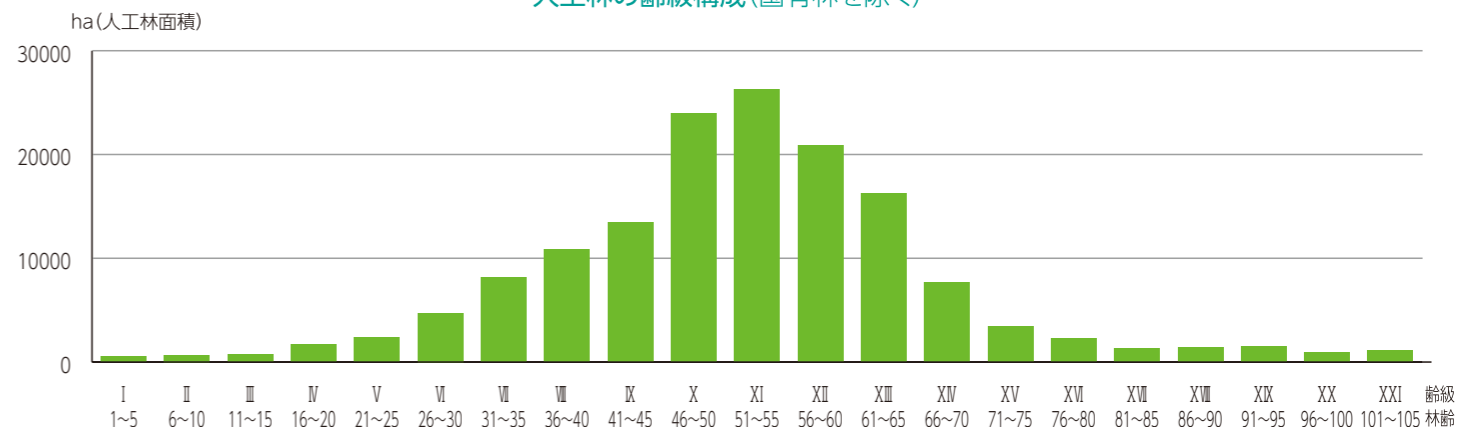


人工林に植栽されている主な樹種



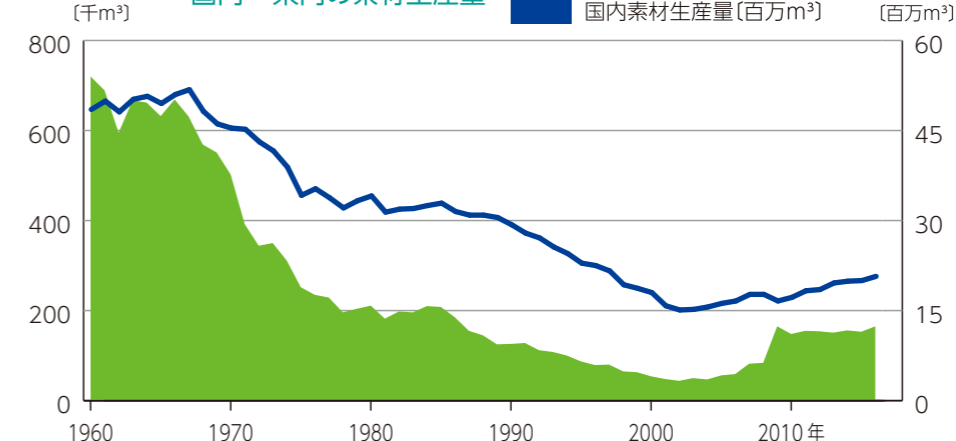
本県の人工林は、資源として本格的な利用期を迎えています。この人工林を計画的に伐採し、年齢構成の平準化を推進することにより、持続可能な林業経営を展開していきます。

人工林の年齢構成(国有林を除く)



データ出典 平成29年度山梨県林業統計書

国内・県内の素材生産量



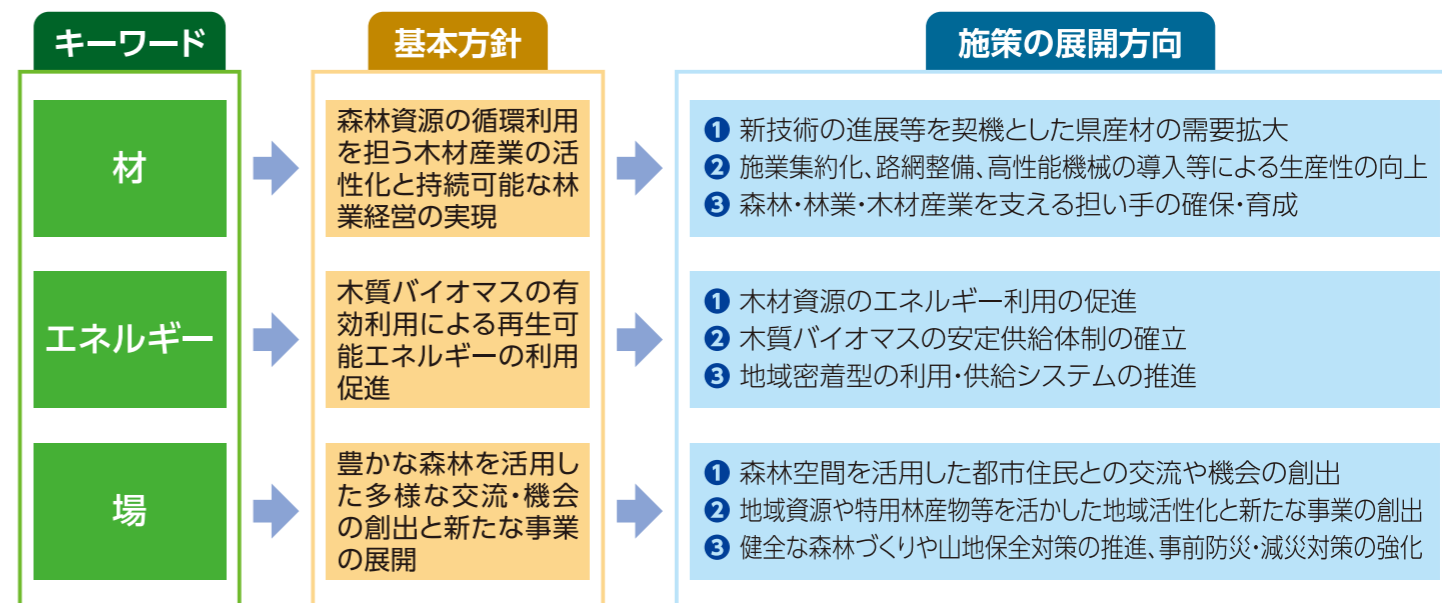
データ出典 2017森林・林業統計要覧(林野庁)

年齢
森林の林齢を5年の幅でくくった単位。人工林は、苗木を植栽した年を1年生とし、1~5年生をI年齢、6~10年生をII年齢と数える。

素材生産量
立木を丸太にして生産した量(丸太の材積)

やまなし森林・林業振興ビジョン ~豊かな森林資源の利活用による成長産業化の実現を目指して~

「材」「エネルギー」「場」の3つのキーワードごとに基本方針、施策の展開方向を示した「やまなし森林・林業振興ビジョン」を平成27年12月に策定しました。



ビジョンに基づく取り組み

県では、林業・木材産業等の成長産業化と地域の活性化に向け、森林資源を多岐にわたって活用する施策を展開しています。

「材」としての利用

適切な森林整備に努めるとともに、作業道等の路網整備や高性能林業機械の導入など、効率的な事業の実施により生産性の向上を図っています。



植栽・間伐の作業



林内路網の基幹となる林道から枝分かれした森林作業道



高性能林業機械による間伐材の搬出作業

また、PR効果の高い公共建築物の木造・木質化や、身近な教育施設への木製品の導入支援などを通して、木材の利用促進を図っています。



県産材をふんだんに使用した大学施設



CLT工法を採用した屋外休憩施設



教育施設向けの県産材の机・椅子

林業の効率的な施業に向け、所有者の異なる複数の森林を集約化したうえで、路網の整備や高性能林業機械の導入による低コスト化を促進するとともに、様々な研修を通じて、林業に関する高度な知識と技能を有した担い手の育成に取り組んでいます。



森林所有者への説明会の様子



森林作業道作設指導の様子

「エネルギー」としての利用

山村地域における自立・分散型エネルギー社会の構築に向け、木質バイオマス資源を熱利用や発電のための燃料として積極的に利用していく取り組みを進めています。



「木の駅プロジェクト」地域の未利用材を有効活用する取り組み



温泉施設の薪ボイラーで利用



「木質ペレット」おが粉等を円筒状に成形した固形燃料



ペレットストーブなどに利用

「場」としての利用

豊かな森林を活用した多様な交流・機会の創出と新たな事業の展開により、森林の「場」としての利用を進めるため、魅力ある森林景観の創出、森林セラピーや企業・団体への森林レクリエーションの場「クライン・ヴァルト」の提供など、森林の保健休養機能を活用するとともに、栽培きのこの産地化に向けた取り組みを進めています。



森林環境教育



森林セラピー(武田の杜)



「山梨夏つ子きのこ」(商標登録名) 県森林総合研究所が品種改良したクロアワビタケ

やまなしの県有林

県有林は県土面積の35%を占めています。県有林が占める割合が全国で最も高いことが本県の特徴となっています。

面積	県土面積に占める県有林の割合	森林面積に占める県有林の割合
158,238ha (2位)	35% (1位)	45% (1位)

出典:「2015世界農業センサス」(山梨県県有林面積は県内にある東京都都立林などを除く管理面積)

御下賜から始まった県有林

明治末期、本県に相次いで発生した大水害は県民の生活を大変苦しいものになりました。

明治天皇はこの窮状を知り、明治44年(1911年)、県下の御料地のほとんどを県の復興に役立てるよう本県に御下賜(ごかし)されました。

これが県土の約3分の1を占める県有林の基となっており、一般には「恩賜林(おんしりん)」の名で呼ばれています。

県では、県土の保全や水資源のかん養、林産業の持続的な供給など、県民に多くの恵みをもたらす貴重な財産として、計画的に管理しています。



明治末期の水害の様子 [笛吹市甲連橋付近] 橋が流失したため、鉄線を架け滑車を用いて救援を行う

日本一のFSC®認証森林

県有林は、世界標準により森林を認証する『FSC®森林管理認証』を2003年に取得しました。

これは、県有林が環境や地域社会に配慮し、経済的にも持続可能な責任ある森林管理を行なっていることを意味します。

県では、県産FSC認証材の供給能力を活かし、県産材の認知度向上と需要拡大に取り組んでいます。



木製遊具



建築資材

FSCとは?

FSC: Forest Stewardship Council®(森林管理協議会 本部:ドイツ) 熱帯雨林の減少など、地球規模での環境問題の深刻化を背景に環境団体、社会・経済団体などにより、1993年に設立された、環境保全の点から見て適切で、社会的な利益にかなない、経済的にも継続可能な森林管理を世界に広めるための国際的な非政府組織です。

認証面積: 14万3千ha

(貸地等を除く全ての県有林)

- 全国第1位の認証面積(国内認証面積の3分の1)
- 公有林では、全国で初めての認証事業者

県産FSC材のブランド力向上に向けて

近年のオリンピック・パラリンピック大会では、国際的な認証を受けた木材が多く使用されてきており、東京2020大会においては、新国立競技場のスタンド観客席を覆う大屋根及び外周部の軒庇、選手村ビレッジプラザの建物部材などへの県産FSC材の活用が決定しています。



2017年9月時点のビレッジプラザイメージ図/©Tokyo 2020

山梨県森林位置図

森林公園

① 県民の森

伊奈ヶ湖周辺から櫛形山の稜線にかけて広がる953haの森林公園。櫛形山に至る登山道、遊歩道のほか、南アルプス市が自然教育の場として運営する森林科学館や、レストハウス、キャンプ場などの施設があります。

② 武田の杜

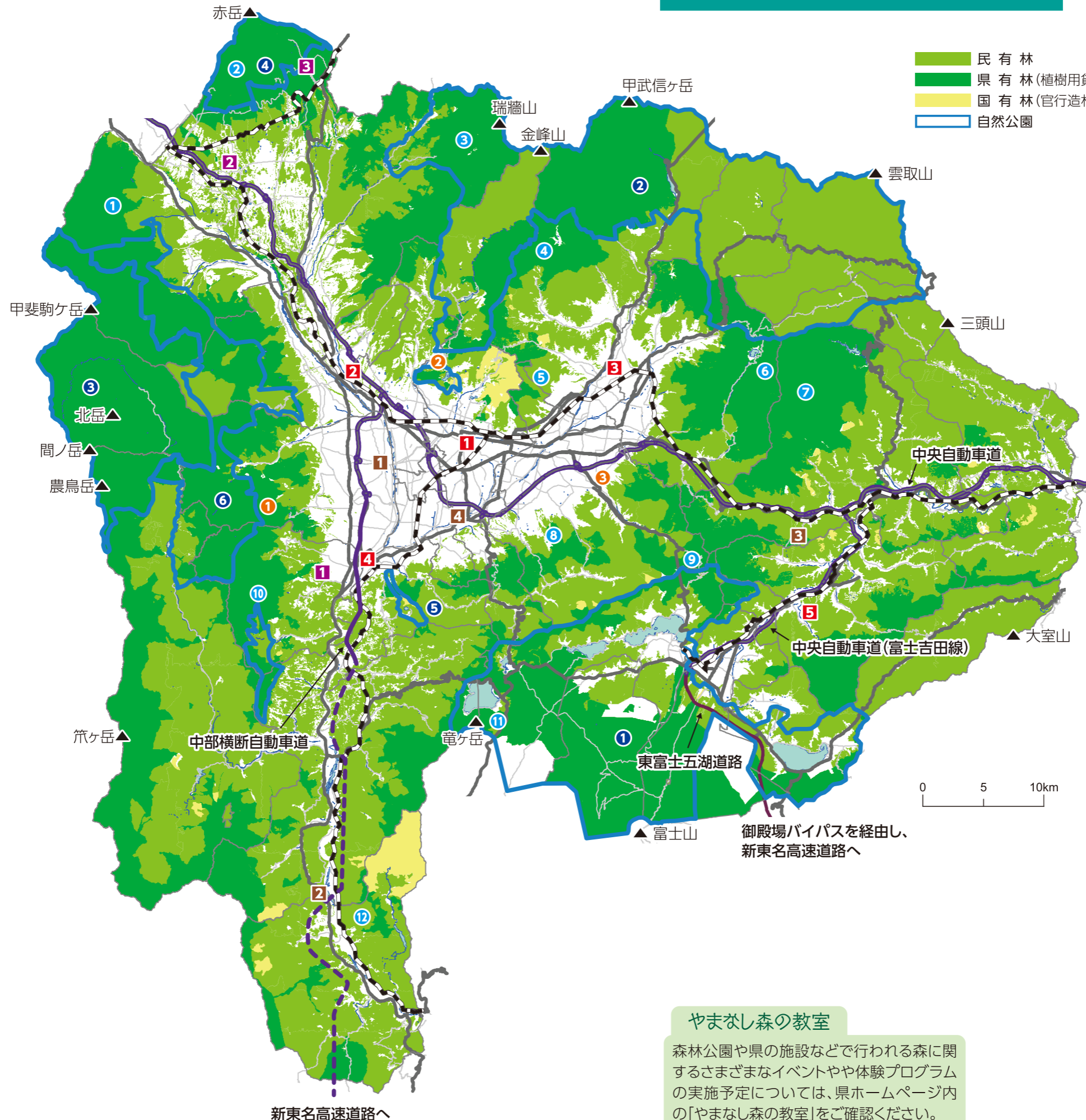
甲府盆地の北部、甲府市街地に隣接する2,500haの保健休養林。中心エリアである「健康の森」は森林セラピー®基地認定を受け、森の癒やし効果を実感できる森林セラピー®を体験できます。また、森林学習展示館やキャンプ場などの施設を備えるほか、区域内には鳥獣センター、樹木見本園があります。

③ 金川の森

金川沿岸の水害防備の歴史を持つ平地林を活用した36.2haの森林公園。6つのエリアで構成されており、さまざまな木製遊具、ターゲットバードゴルフ場、サイクルカートコース、マウンテンバイクコースなどの施設があり、貸自転車でのサイクリングも楽しめます。

森林文化の森

- ① 釜無水源の森
- ② 八ヶ岳の森
- ③ 瑞牆の森
- ④ 乙女高原の森
- ⑤ 兜山の森
- ⑥ 大菩薩の森
- ⑦ 小金沢シオジの森
- ⑧ 稲山ケヤキの森
- ⑨ 河口の森
- ⑩ 十谷の森
- ⑪ 本栖の森
- ⑫ 思親山の森



- 民有林
- 県有林 (植樹用貸地を含む)
- 国有林 (官行造林地を含む)
- 自然公園

森林・林業関係の県施設

① 森林総合研究所

森林や林業に関する試験研究と普及・研修活動を行っており、併設する「森の教室」では、森林・林業に関する体験プログラムを実施しています。

② 環境科学研究所

富士山の麓で、「自然と人との共生」をテーマとした研究を行っており、環境教育や森のガイドウォークなどの体験プログラムを実施しています。

③ シミック八ヶ岳薬用植物園

森林総合研究所の附属施設として、薬用植物、ハーブ、きのこなどの試験研究、展示普及を行っており、薬用植物などの利用や栽培に関する体験プログラムとして「山の幸教室」を実施しています。

④ 八ヶ岳自然ふれあいセンター

八ヶ岳南麓の自然や環境に関するインフォメーションセンターとして情報提供をしており、家族みんなで楽しめる体験プログラムを実施しています。

県庁・出先機関

- ① 山梨県庁
- ② 中北林務環境事務所
- ③ 峡東林務環境事務所
- ④ 峡南林務環境事務所
- ⑤ 富士・東部林務環境事務所

木材流通拠点

- ① 中央拠点(木の国サイト)
- ② 南部拠点(富士川木材共販所)
- ③ 東部拠点(甲斐東部木材団地)
- ④ 森林組合連合会木材共販所

自然公園

① 富士箱根伊豆国立公園	36,742ha
② 秩父多摩甲斐国立公園	46,834ha
③ 南アルプス国立公園	18,286ha
④ 八ヶ岳中信高原国定公園	4,088ha
⑤ 県立四尾連湖自然公園	362ha
⑥ 県立南アルプス巨摩自然公園	14,841ha

やまなし森の教室

森林公園や県の施設などで行われる森に関するさまざまなイベントや体験プログラムの実施予定については、県ホームページ内の「やまなし森の教室」をご確認ください。

御殿場バイパスを經由し、
新東名高速道路へ

新東名高速道路へ